

ユネスコスクール年次報告書

報告期間: 2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前, メールアドレス, 添付資料を除き, HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立 唐桑小学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
住所 〒988-0533
宮城県気仙沼市唐桑町明戸208-6
E-mail : karakuwa-sho@kesenuma.ed.jp
Website : 作成中
児童生徒数 : 男子 46名 女子 45名 合計 91名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動 (複数選択可)

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

4. 活動概要

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○1～3年:(福祉体験・農業体験が中心)

1～3学年とも地域の農業関係者の支援をいただき、保護者や地域との関わりを深めながら、野菜を育て、食育に関わるような内容を学習してきた。また2年生においては、海とかかわる視点から、鮭の稚魚放流に参加し、6年時の定置網漁体験につなげるようにした。低学年は来年度入学してくる唐桑幼稚園児を招いての交流を行い、楽しく遊んだり、一緒に給食を食べたりすることができた。また3年生では、学区内にある福祉センターの見学や利用者との交流を通して、地域に住むお年寄りとの関わりを深めることができた。今年度の反省から、来年度の3年生のプログラムに海藻を用いた野菜栽培を取り入れることとなった。

○4年「おいしい牡蠣を育てよう」(主な体験活動:種ばさみ体験,磯の水生生物調査)

種ガキをロープに挟み込み、翌年の「耳つり体験」につなげ種ばさみ体験や牡蠣の生態についての基礎的な調べ学習を行った。また今年度から、唐桑の海の特色である岩場(磯)をフィールドに加え、生物調査を実施した。形が似ている生物でも、観察を通して違いに気づいたり、季節によって生きものの種類が違うことを知ったりしながら、海の豊かさについての導入を新たに図った。また学区内にある知的障害者施設の方々との交流を行い、同じ地域に住む住民として分け隔てなく関わりをもつことができた。また今年度もグリーンカーテンにも取り組み、温暖化に対する知識とその対策について、自分たちができることを実践することができた。

○5年「唐桑の海の秘密を探ろう」

(主な体験活動:牡蠣耳つり体験,プランクトン観察,グリーンウエーブ活動,植樹活動)

今年度も「森は海の恋人植樹祭」に参加し、全国の方々と一緒に植樹を行った。6年生も同様に参加している。また植樹と関連して、グリーンウエーブの活動にも参加しながら森と海との関連性について、さらに理解を深めることができた。

牡蠣を大きく育てる「耳つり」という養殖方法を体験した。牡蠣の筏の周りで、魚の稚魚等たくさんの生き物たちを見つけ、海の豊かさを実感することができた。養殖に携わる方の話を聞きながら、牡蠣が成長する条件となるプランクトンの重要性も知ることができ、エサとなるプランクトンが豊富な海にするためには、森が必要だということも理解できた。5年生が行う宿泊学習(一関市)において、プログラムの中に豊かなブナ林の散策と土壌生物調査を行い、森と海との結びつきをより科学的にとらえさせることができた。

今年度は理科授業との関連から、海のプランクトンを調べ、本当にカキがプランクトンを食べているのかを確かめる活動や海水から食塩をとり出す活動を新たに加え、授業を実践した。

○6年「唐桑の素晴らしさを伝えよう」

(主な体験活動:温湯処理,牡蠣の水揚げ,牡蠣まつり参加,定置網おこし)

牡蠣を大きく、しかも質の良いものにするために行う「温湯処理」の作業を見学し、作業の大変さを実感しながら、牡蠣の成長とそのそばに自生する海草類やホヤ等の生き物の特性について学んだ。「牡蠣の水揚げ体験」においては、「温湯処理」をしたものとししないものを比較し、その成長の違いを感じるすることができた。また地元の「牡蠣

まつり」に参加し、牡蠣を商品として取り扱い、販売の体験を通して、「販売の仕方」や「安心安全な食」についての考えを生産者の立場から学んだ。さらに「定置網おこし」の体験を通して、自分たちの地域が恵まれた自然の中にあり、その恩恵を受けて自分たちが生活していることを実感した。今年度は早朝からの体験活動に大学の専門家を招いて「三陸の海の豊かさと定置網漁の工夫」という内容で授業を実施した。人間の工夫や努力はもちろんだが、人間の手では創れない「唐桑の海」の豊かさに改めて気づき、自分たちがしなければならぬことを考えるきっかけとなった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用 ユネスコクラブの活動として実施
- その他（低学年では生活科）